

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	世羅町立せらにし小学校		
学校長氏名	中野 智美	栄養教諭氏名	福間 智美
職員数	18名	児童・生徒数	126名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

学校農園「つばきっ子ふれあいファーム」で地域の方の協力を得て農業体験に取り組んでいる。調理する体験を増やすために「ひろしま給食100万食プロジェクト」や「たすきでつなぐ世羅の食育～レシピコンテスト」を行っているが、応募数が少なく、調理への意欲をもつ児童が少ない。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・学期に1回以上、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）の定着へ向けた指導を行い、早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている児童を80%とする。
- ・レシピコンテストへの応募や農業体験を行い、食べものへの感謝の気持ちや調理への興味関心をもたせる。レシピコンテストに応募する児童を60%とする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 作る体験を増やす

①レシピコンテストに応募することによる調理体験

「ひろしま給食100万食プロジェクト」や「～たすきでつなぐ世羅の食育～レシピコンテスト」（世羅町）「わが家の元気みそ汁作り！」（本校）のレシピ応募を奨励し、家庭で調理する機会を増やした。保護者からのメッセージの中には、保護者の方が関わってくださっている様子が伺え、微笑ましい感想もあった。

②ファミリークッキング

世羅町食生活推進員協議会の協力を得て、夏季休業中に児童と保護者で楽しく調理実習を行った。

③調理クラブ

4年生以上が所属するクラブ活動でおやつなどの調理を行った。児童が料理を選び、料理本やインターネットを活用し材料や作り方を調べることで、自主性を発揮する児童が増えてきた。

【取組2】（テーマ） 学校農園での農業体験

農業体験を行うことにより、農業への理解や関心をもつ児童を増やすことで、将来の地域の活性化につながることを目標に実施している。今年度は企業や農事組合法人の協力者を得て、学校農園でさつま芋、とうもろこし、かぼちゃ、ピーナッツの栽培を行った。収穫後は学校給食への利用や学級でのお楽しみ会などに活用した。学校給食への利用にあたっては、どんな料理で食べたいかアンケートを行い、給食への関心や食への感謝の気持ちを育むことに繋がった。



【取組3】(テーマ) せらにし100%みそ汁の取組

総合的な学習の時間5学年では、「元気な世羅を伝えよう～せらにしのおいしさたっぷりみそ汁を作ろう～」において、世羅西の農業について調べ、地域の生産者の方の世羅西への思いを学び、世羅西らしいみそ汁作りに取り組んだ。さつま芋や人参、大根、大豆を栽培し、食材を世羅西地域ですべて調達することとした。豆腐は、講師を招聘し、作り方を学んだ。せらにし小研究会では、考えたみそ汁を参加者に振る舞い、自分たちで学習したことをプレゼンで発表した。



【取組4】(テーマ) 地場産物を活用し、地域への理解を深める

①毎月19日「たのしく食べよう せらのふるさと給食」

地域・生産者・学校・給食センターがつながり、町全体で食育を進める取組となり、農産物への理解を深める機会となっている。

学校では、

- ・毎月19日は紹介する食材を使ったメニューにする。
- ・旬の食材の指導用資料(町教委から配布)を活用し各学級で指導する。
- ・給食後は、各学級で生産者へのメッセージを書く。(メッセージは給食センターでまとめて生産者へ届ける。)

②朝会でとうもろこしの皮むき体験

朝会時、とうもろこしの皮むきを行い、当日の給食で食した。とうもろこしの生産者を紹介し、生産の工夫や苦勞を知る機会にもなった。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ①親子で調理して食べる体験を増やすため、レシピ応募とキャッチコピーへの応募を奨励した。広島県の特産品への知識を深める機会ともなった。
- ②「ひろしま給食の日」を町全体の取組とするため、指導用資料を作成し、世羅町教育委員会から町内全学校へ配布した。
- ③「ファミリークッキング」のメニューに「熱く燃えろ!!Cスープ」を加え、調理に対する意欲をもたせた。
- ④せらケーブルテレビを活用し、地域へ情報発信した。放送内容は、世羅町の「ひろしま給食の日」に5学年の給食時間の指導の様子を流したり、世羅町教育委員会職員による広島県のひろしま給食への取組などについて説明を行った。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ① レシピコンテストに応募した児童は延べ 153 名であった。記入されていた感想から保護者の方が児童に関わってくださっている様子が伺えた。「～たすきでつなぐ世羅の食育～レシピコンテスト」には、最優秀賞 1 名、優秀賞 1 名が入賞し、レシピ集に掲載されることとなった。児童の頑張りが評価される機会となった。(達成値 202%)
- ② 生活習慣調査(早寝・早起き・朝ごはん)の結果は、昨年度の同時期と比較すると、できた割合が 13.5% 増えている。調査を行うことにより、児童・保護者ともに意識が高まっている。(達成値 101%)
- ③ 「たのしく食べよう せらのふるさと給食」を毎月行い、地場産物を紹介することにより、知識が深まっている。(広島県の食材を知っている 5 年生児童 100%) また、生産者へのメッセージを読むと生産者や食べ物への感謝の気持ちが伺える。

【課題】

児童の実態調査から次の点に課題が伺える。

項 目	実 態	比較 (目標値・平均値)
主食・主菜・副菜がそろった朝食を食べている。	5 年生 56%	広島県目標 66%
食事の準備や後かたづけの手伝いをしている。	3 年生以上 57%	広島県目標 5 年生 78%

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ① 食に関する全体計画、年間指導計画を見直し、数値による指標を設定し、計画的に行う。
- ② 地域・行政と連携し、食育推進を図る。
- ③ 教職員間で共通理解をもち、計画的に推進を図る。